

「ふじ」目揃い会

2024年11月6日

奥州農業改良普及センター

J A岩手ふるさとりんご専門部

1 本年の満開日と収穫期の目安

(1) 満開日を基準とした「ふじ」の収穫期

即売～年内販売用は、満開後180～185日を収穫の目安とする。

表1 満開日を基準とした「ふじ」の収穫期予想（即売～年内販売）

地区	満開日	収穫目安	
		満開後180日	満開後185日
平場（前沢稲置）	4/26	10/23	10/28
中間（江刺広瀬）	4/27	10/24	10/29
山手（江刺伊手）	4/30	10/27	11/1

(2) 果実品質から見た収穫の目安

以下の硬度、糖度、ヨード反応指数、地色指数を参考にして収穫期を決定する。

表2 果実品質からみた収穫目安

硬度(ポンド)	糖度(%)	ヨード反応指数	地色指数
14以上	14以上	1～2	4～5

※地色指数は、「ふじ」用地色カラーチャートの指数

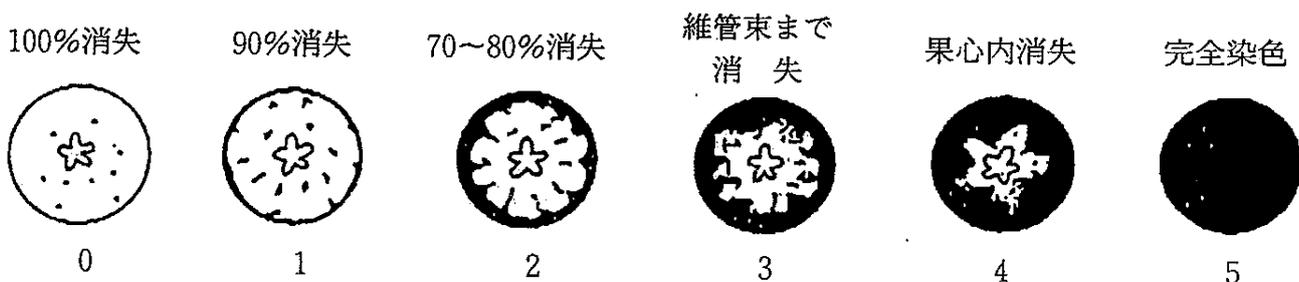


図1 ヨード反応指数（ヨード・ヨードカリ液によるデンプン反応の指数）

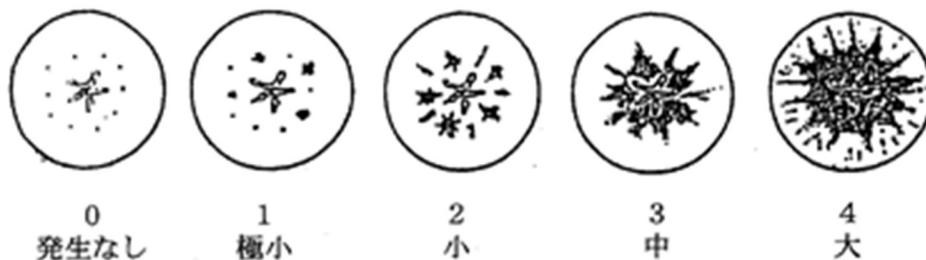


図2 みつ入り程度の指数

2 調査地点における果実の成熟状況 (11/1 時点)

- (1) 硬度は、平場～中間で平年と比較して低く、山手では平年並み。
- (2) 糖度は、概ね平年並み。
- (3) ヨード反応指数は、平年並み～平年よりやや低い。
- (4) みつ入り指数は、平年よりやや低く、概ね昨年並み。

表3 「ふじ」の果実品質

場所	調査日	年次	果重 (g)	硬度 (ポンド)	糖度 (%)	ヨード 反応指数	みつ入り 指数
前沢	10/21	R6	294	14.8	14.7	2.3	0.5
		R5	301	14.1	15.0	2.0	0.0
		平年	277	14.9	14.6	2.4	0.4
	11/1	R6	313	14.1	15.9	1.5	1.0
		R5	325	14.0	14.5	1.3	0.7
		平年	306	14.2	14.8	1.4	1.1
	11/11	R5	336	14.9	15.0	0.7	0.7
稲瀬 (小倉沢)	10/21	R6	317	14.4	14.5	0.8	0.3
		R5	321	14.6	14.3	2.2	0.5
		平年	312	14.1	13.7	2.2	0.6
	11/1	R6	353	12.5	14.2	1.2	1.2
		R5	302	14.0	14.6	2.0	1.3
		平年	339	13.8	14.6	1.8	1.8
広瀬 (樽輪)	10/21	R6	276	14.6	14.3	1.3	0.0
		R5	262	15.8	14.2	2.3	0.1
		平年	271	15.1	13.8	2.4	0.7
	11/1	R6	311	13.6	14.9	1.0	0.8
		R5	272	15.8	14.2	1.3	0.5
		平年	287	14.9	14.6	1.7	1.4
	11/11	R5	283	14.8	15.0	0.8	1.3

※平年は、R1～R5年の5か年平均値

表3 「ふじ」の果実品質（前ページの続き）

場所	調査日	年次	果重 (g)	硬度 (ポンド)	糖度 (%)	ヨード 反応指数	みつ入り 指数
梁川 (栗生沢)	10/21	R6	330	17.3	14.6	1.7	0.0
		R5	359	16.3	14.4	2.7	0.0
		平年	333	15.4	14.6	2.8	0.9
	11/1	R6	435	14.6	15.1	1.3	1.0
		R5	352	15.8	15.5	2.5	0.8
		平年	390	15.5	15.4	2.2	1.9
伊手	10/21	R6	343	14.6	14.7	2.8	1.0
		R5	282	16.1	14.8	2.7	1.2
		平年	317	16.3	14.8	2.9	1.2
	11/1	R6	368	15.2	15.2	2.5	1.5
		R5	315	15.5	15.7	2.7	2.2
		平年	346	15.5	15.6	2.5	2.1
11/11	R5	353	14.7	14.7	1.5	2.2	
藤里	10/21	R6	367	17.8	16.6	2.7	0.2
		R5	336	16.1	15.0	3.0	0.7
		平年	312	16.7	14.5	3.2	1.3
	11/1	R6	346	16.8	17.4	1.7	1.0
		R5	412	14.9	15.2	2.8	1.5
		平年	372	16.1	15.6	2.7	2.2

※平年は、R1～R5年の5か年平均値。

3 収穫作業上の留意点

- (1) 使用した農薬の使用時期（収穫前日数）を必ず確認したうえで収穫する。
- (2) 雨天時の収穫は極力避ける。また、収穫かごやコンテナを地面に直接置かない。
- (3) 外観のみで判断せず、食味を確認してから収穫を開始する。
- (4) 収穫が早すぎると貯蔵中にヤケが発生しやすく、収穫が遅すぎると内部褐変が発生しやすい。また、収穫時期が遅くなると果実が樹上凍結する恐れがあるので適期収穫に努める。
- (5) みつが著しく入った果実は早期販売には有利だが、長期貯蔵すると内部褐変が多くなるので注意する。

4 今後の管理

(1) 樹体の凍寒害対策

- ア 近年は冬季の気温が高めに経過するため樹体の休眠は浅く、その結果耐凍性が徐々に低下して、その後の低温遭遇で凍寒害が発生する場合がある。
- イ 特に定植したばかりの幼木～結実初期（3～4年生）の若木で発生しやすく、結実量が多く衰弱した樹や水はけの悪い圃場、肥料が遅くまで効いて新梢の止まりの悪い樹でも凍寒害が発生することがある。
- ウ 発生が心配される園地では、炭酸カルシウム（商品名：ホワイトンパウダー）又は水性ペンキ（白色）を地際部から高さ 50cm 程度まで塗布するか、わらを巻くなどして被害の軽減を図る。

(2) 除草剤の秋処理

- ア 晩生種の収穫後～落葉前に除草剤を処理すると、翌年の6月頃まで雑草を抑えることができる。
- イ りんごの落葉で地表面が覆われると散布ムラが生じやすいので、処理が遅れないよう注意する。
- ウ 収穫後に使用した農薬は、翌年の使用回数に含まれるので注意する。

(3) 野ネズミ対策、鳥獣害対策

- ア 選果等で発生した廃棄果実を園地内外にそのまま放置すると、ハクビシンや野ネズミの増殖、クマによる春先の人的被害などを助長することがある。廃棄果実は、地中深く埋めるか破碎するなどの処理を実施し、獣害が発生しにくい園地環境をつくる。
- イ 苗木、若木（特に JM7 台木利用樹）は野ネズミの食害を受けやすいので、根雪前に殺そ剤による駆除と忌避剤を併用しながら防除する。

掘り起こされないよう
地中深く
埋めましょう！



📧 秋の農作業安全月間（9/15～11/15） 📧

ひと休み 急がば回れ 農作業 ゆとり忘れず 安全管理